

令和4年

宮城県 海難発生状況

宮城海上保安部

令和5年5月

目 次

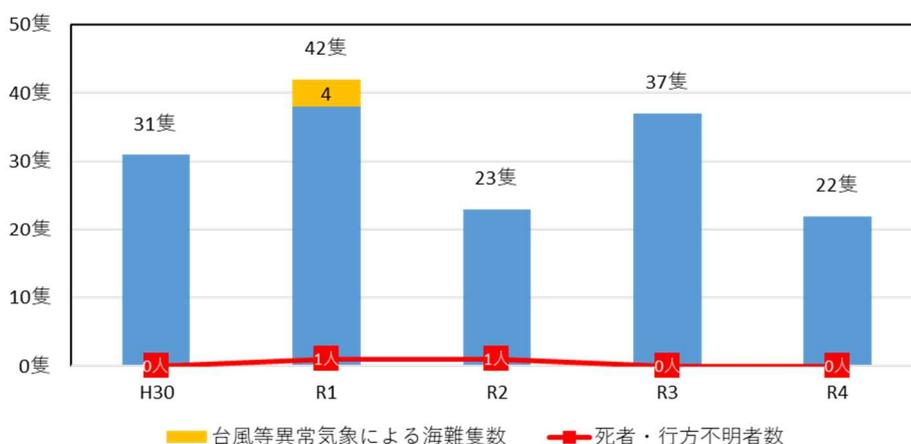
1 船舶海難の特徴	P1
(1) 船舶海難(全体)	P1
(2) 漁船海難	P3
(3) プレジャーボート海難	P5
① PWC	P7
② ミニボート	P7
(4) 工事関係船(作業船・その他)	P8
2 人身海難の特徴	P10
(1) 人身海難(全体)	P10
(2) 船舶海難によらない人身事故	P11
① 漁 船	P12
② プレジャーボート	P14
③ 工事関係船(作業船・その他)	P16
(3) マリレに伴う海浜事故	P17
① 釣り中	P18
② 遊泳中	P20
③ SUP(スタンドアップパドルボード)中	P22
(4) マリレ以外の海浜事故	P24
3 人身海難発生時における救命胴衣の着用率	P25
(1) 漁船からの海中転落者の救命胴衣着用率	P25
(2) プレジャーボートからの海中転落者の救命胴衣着用率	P25
(3) 釣り中の海中転落者の救命胴衣着用率	P25

1 船舶海難の特徴

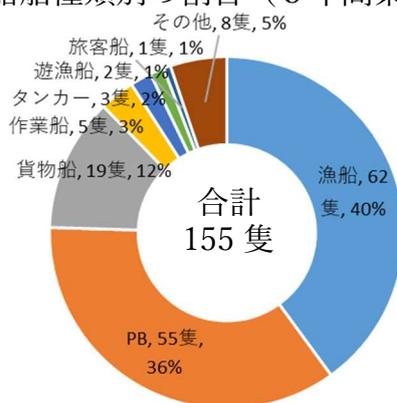
(1) 船舶海難（全体）

- ✓ 令和4年は前年比15隻減の22隻と大幅に減少し、近年において最少。
- ✓ 船舶種類別にみると、貨物船による海難が前年比6隻減の1隻、プレジャーボートが5隻減の9隻と大幅に減少した。
- ✓ 令和4年4月、北海道斜里郡斜里町で発生した知床観光船沈没事故が大きく報道されたことにより、関係者の安全意識が高くなったことが要因の一つと考えられる。
- ✓ なお、漁船による海難が最も多く全体の40%（62隻/155隻）を占め、次いでプレジャーボートが36%（55隻）を占める。（5年間累計）

〔船舶海難の発生状況と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



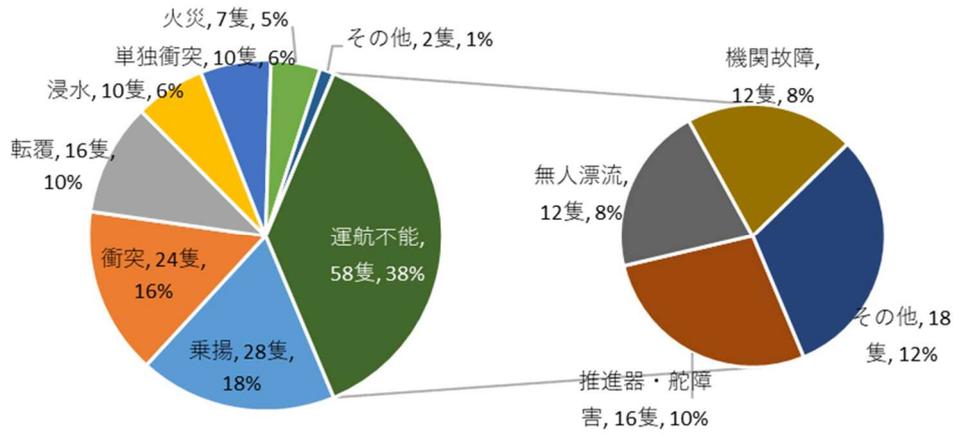
〔船舶種類別の割合（5年間累計）〕



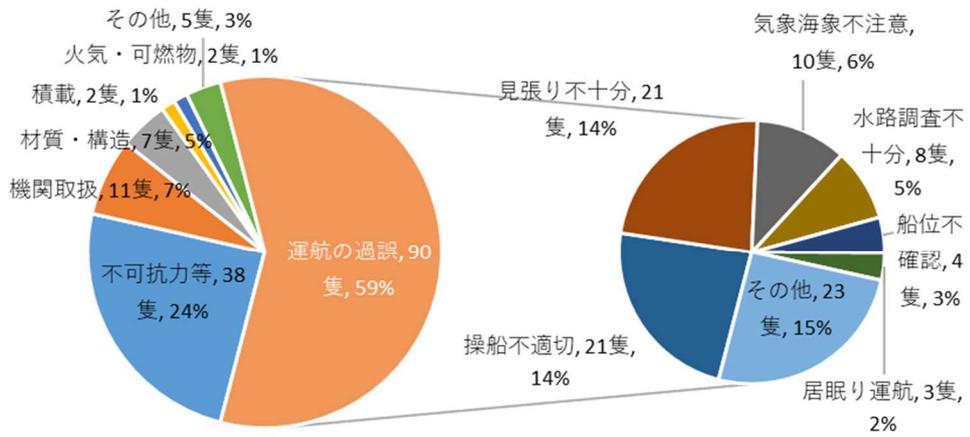
〔船舶種類別の海難発生状況の推移（5年間）〕

	H30	R1	R2	R3	R4	計
漁船	9隻	23隻	11隻	10隻	9隻	62隻
PB	9隻	11隻	12隻	14隻	9隻	55隻
貨物船	7隻	4隻	7隻	7隻	1隻	19隻
作業船		3隻		1隻	1隻	5隻
タンカー	1隻			2隻		3隻
遊漁船					2隻	2隻
旅客船				1隻		1隻
その他	5隻	1隻		2隻		8隻
計	31隻	42隻	23隻	37隻	22隻	155隻

〔海難種類別の割合（5年間累計）〕



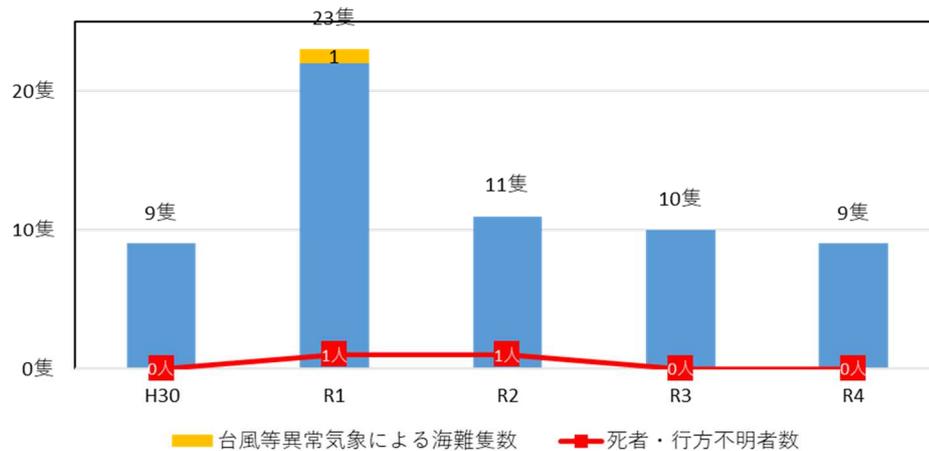
〔海難原因別の割合（5年間累計）〕



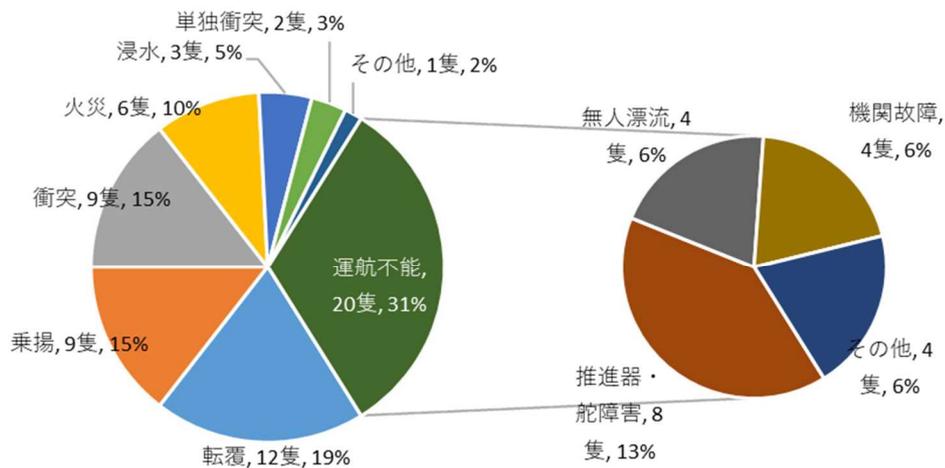
(2) 漁船海難

- ✓ 令和4年は前年比1隻減の9隻と減少したが、近年においてはほぼ横ばいで推移。
- ✓ 海難種類別にみると、運航不能海難が最も多く、全体の31%（20隻／62隻）を占め、次いで転覆海難が19%（12隻）と続く。（5年間累計）
- ✓ 発生時期は、秋季（9月～11月）に多く発生し、特に10月に多く発生する傾向にあるが、年間を通じて発生している。（5年間累計）

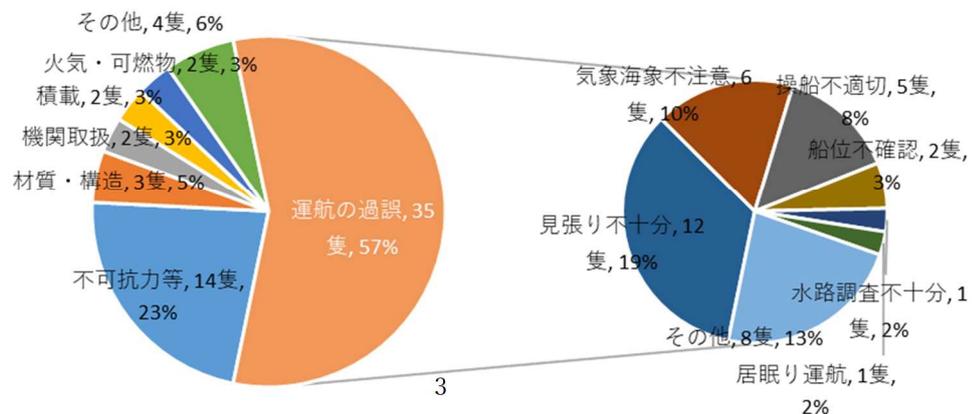
〔漁船海難の発生状況と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



〔海難種類別の割合（5年間累計）〕



〔海難原因別の割合（5年間累計）〕



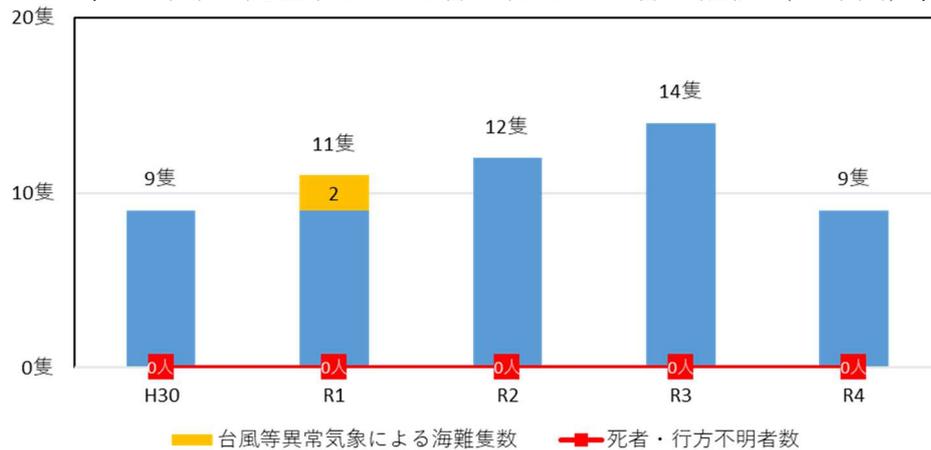
〔漁船海難の発生時期と海難の種類（5年間累計）〕

	冬		春			夏			秋			冬	計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
運航不能	1隻	0隻	0隻	2隻	1隻	2隻	4隻	1隻	2隻	4隻	2隻	1隻	20隻
（推進器・舵障害						2隻	2隻	1隻		3隻			8隻
（無人漂流				1隻					1隻	1隻		1隻	4隻
（機関故障							2隻		1隻		1隻		4隻
（その他	1隻			1隻	1隻						1隻		4隻
転覆	3隻			3隻	2隻		1隻			1隻	1隻	1隻	12隻
乗揚		1隻				2隻		2隻	1隻	1隻	1隻	1隻	9隻
衝突	3隻									2隻	2隻	2隻	9隻
火災			1隻	1隻		1隻		2隻		1隻			6隻
浸水			1隻								1隻	1隻	3隻
単独衝突					1隻					1隻			2隻
その他											1隻		1隻
計（月）	7隻	1隻	2隻	6隻	4隻	5隻	5隻	5隻	3隻	10隻	8隻	6隻	82隻
計（季節）	14隻		12隻			15隻			21隻				62隻

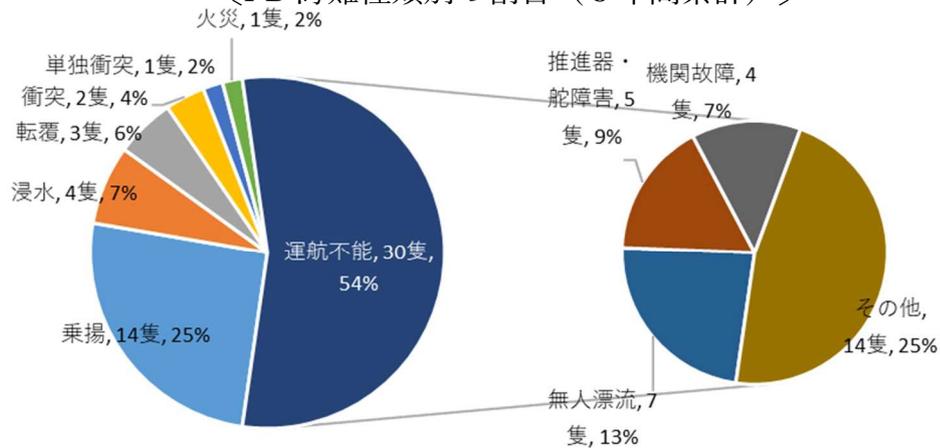
(3) プレジャーボート海難

- ✓ 令和4年は前年比5隻減の9隻と大幅に減少し、近年において平成30年と並び最少。
- ✓ 海難種類別にみると、運航不能海難が最も多く全体の54%（30隻/55隻）を占め、次いで乗揚海難が25%（14隻）と続く。（5年間累計）
- ✓ 発生時期は、年間を通じて発生している。

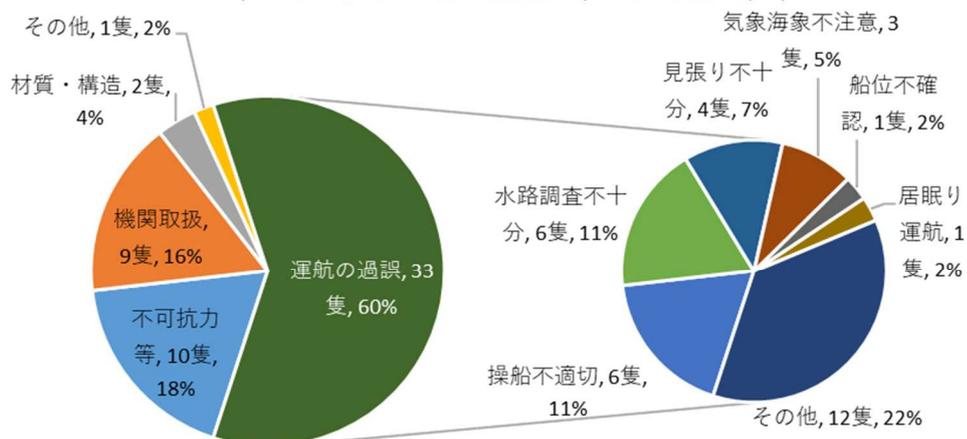
〔PB海難の発生状況と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



〔PB海難種類別の割合（5年間累計）〕



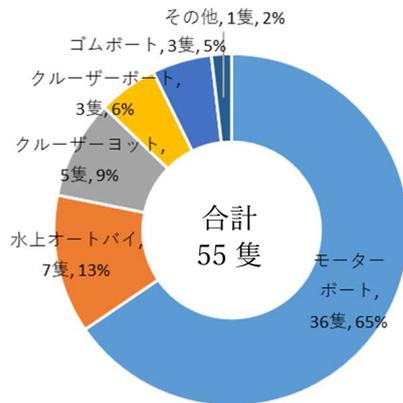
〔PB海難原因別の割合（5年間累計）〕



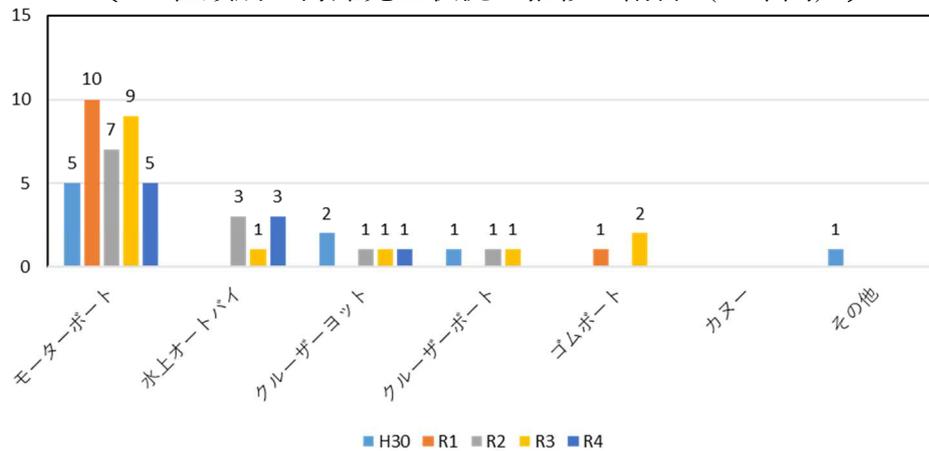
〔PB 海難の発生時期と海難の種類（5年間累計）〕

	冬		春			夏			秋			冬	計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
運航不能	0隻	0隻	3隻	1隻	3隻	2隻	3隻	5隻	4隻	3隻	3隻	3隻	30隻
無人漂流				1隻			1隻	1隻		2隻		2隻	7隻
推進器・舵障害					1隻	1隻		1隻	1隻			1隻	5隻
機関故障			2隻					2隻					4隻
その他			1隻		2隻		2隻	2隻	3隻	1隻	3隻		14隻
乗揚		2隻	2隻	1隻			1隻	1隻	2隻	2隻	2隻	1隻	14隻
浸水	1隻			1隻			1隻			1隻			4隻
転覆				1隻						1隻	1隻		3隻
衝突							2隻						2隻
火災								1隻					1隻
単独衝突								1隻					1隻
その他													0隻
計（月）	1隻	2隻	5隻	4隻	3隻	2隻	7隻	8隻	6隻	7隻	6隻	4隻	85隻
計（季節）	7隻		12隻			17隻			19隻				55隻

〔PB 種類別の割合（5年間累計）〕



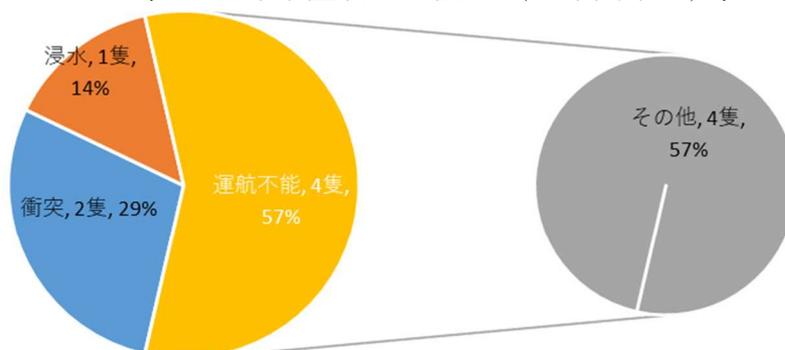
〔PB 種類別の海難発生状況の推移と割合（5年間）〕



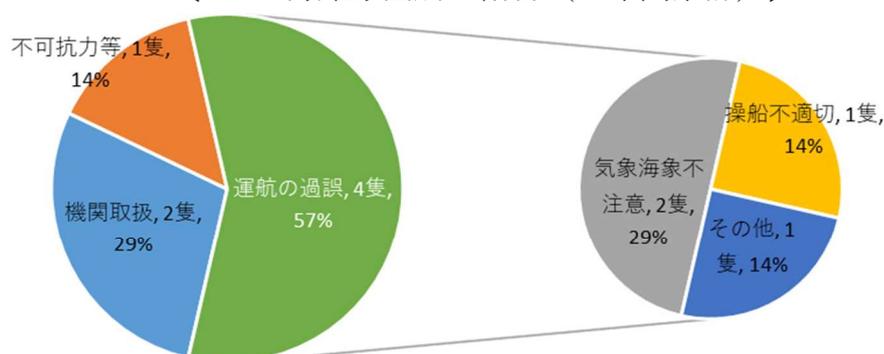
① PWC

- ✓ 急激なハンドル操作により転落・衝突（R4、2隻）、浸水（R4）、バッテリー過放電（R3）、エンジンキー海没（R2）及び大波による転覆で操船者が投げ出された（R2、2隻）ことによる運航不能（その他）海難が発生。（5年間累計）
- ✓ 発生時期は、7月に多発する傾向にある。（5年間累計）

〔PWC 海難種類別の割合（5年間累計）〕



〔PWC 海難原因別の割合（5年間累計）〕



〔PWC 海難の発生時期と海難の種類（5年間累計）〕

	冬		春			夏			秋			冬	計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月			12月
運航不能 〔その他〕	0隻	0隻	0隻	0隻	1隻	0隻	1隻	0隻	2隻	0隻	0隻	0隻	4隻	4隻〕
衝突							2隻						2隻	
浸水							1隻						1隻	
計（月）	0隻	0隻	0隻	0隻	1隻	0隻	4隻	0隻	2隻	0隻	0隻	0隻	11隻	
計（季節）	0隻		1隻			4隻			2隻				7隻	

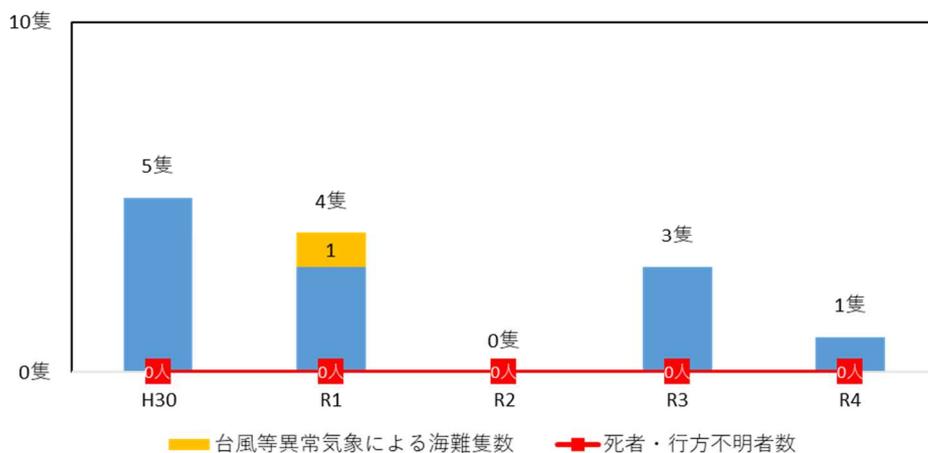
② ミニボート

なし（5年間累計）

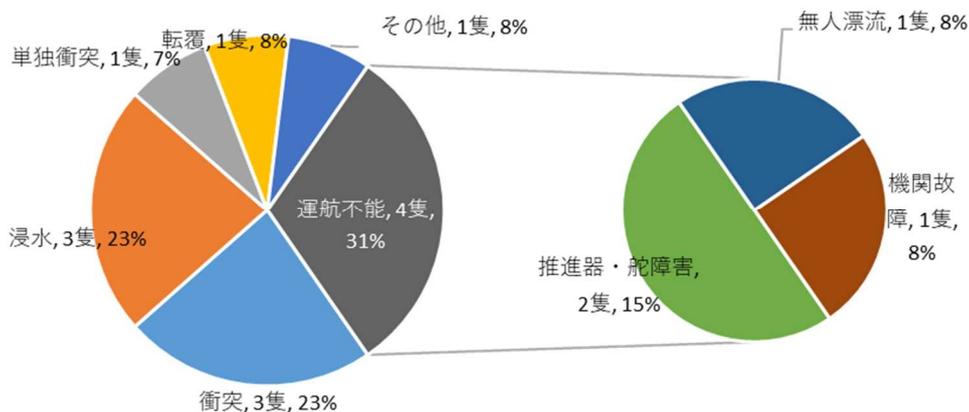
(4) 工事関係船（作業船・その他）

- ✓ 令和4年は前年比2隻減の1隻と減少したが、近年においては断続的に発生。
- ✓ 海難種類別にみると、運航不能によるものが最も多く、全体の31%（4隻/13隻）を占め、次いで衝突及び浸水が約23%（3隻）と続く。（5年間累計）
- ✓ 発生時期は、夏季を除き、概ね年間を通じて発生している。（5年間累計）

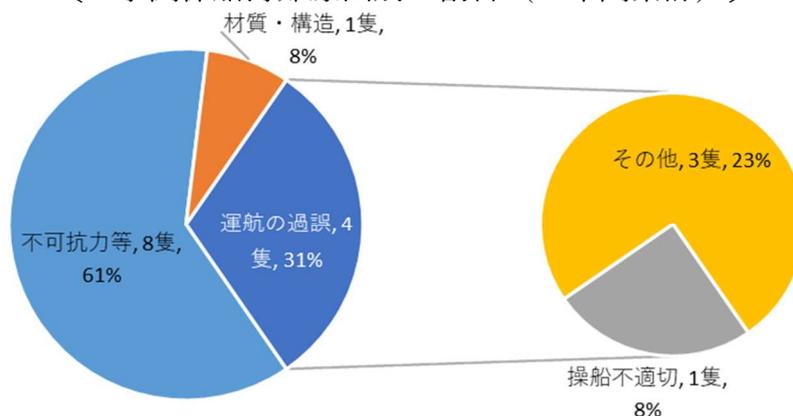
〔工事関係船海難の発生状況と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



〔工事関係船海難種類別の割合（5年間累計）〕



〔工事関係船海難原因別の割合（5年間累計）〕



〔工事関係船海難の発生時期と海難の種類（5年間累計）〕

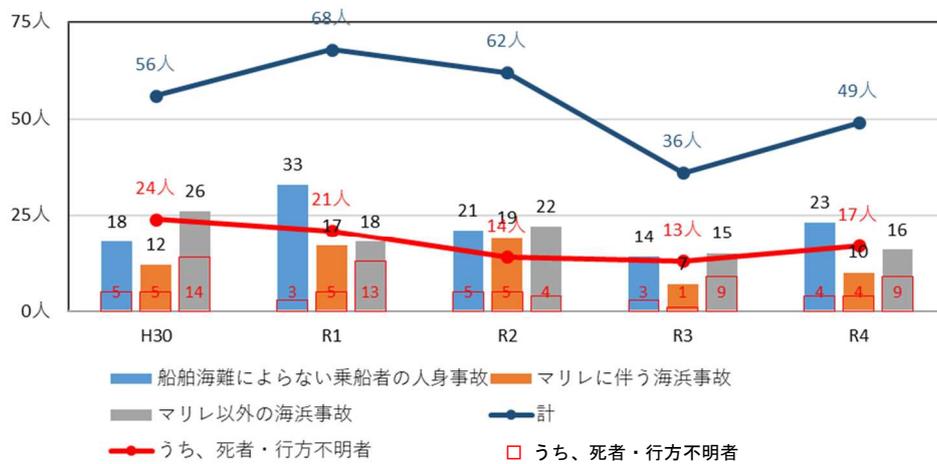
	冬		春			夏			秋			冬	計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
運航不能	0隻	0隻	1隻	0隻	0隻	0隻	0隻	0隻	1隻	1隻	1隻	0隻	4隻
（無人漂流									1隻				1隻
推進器・舵障害			1隻							1隻			2隻
機関故障											1隻		1隻
浸水	2隻		1隻										3隻
衝突				1隻	2隻								3隻
転覆												1隻	1隻
単独衝突										1隻			1隻
その他									1隻				1隻
計（月）	2隻	0隻	2隻	1隻	2隻	0隻	0隻	0隻	2隻	2隻	1隻	1隻	13隻
計（季節）	3隻		5隻			0隻			5隻				13隻

2 人身海難の特徴

(1) 人身海難（全体）

- ✓ 令和4年は前年比13人増の49人と増加した。
- ✓ 船舶海難によらない乗船者の人身事故が前年比9人増の23人と大幅に増加した。
- ✓ 死者・行方不明者は前年比4人増の17人と増加したが、近年においてほぼ横ばいで推移。

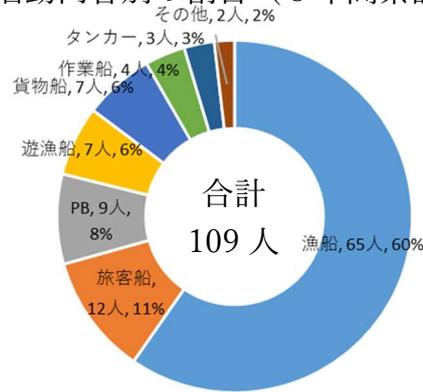
〔人身海難の発生状況と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



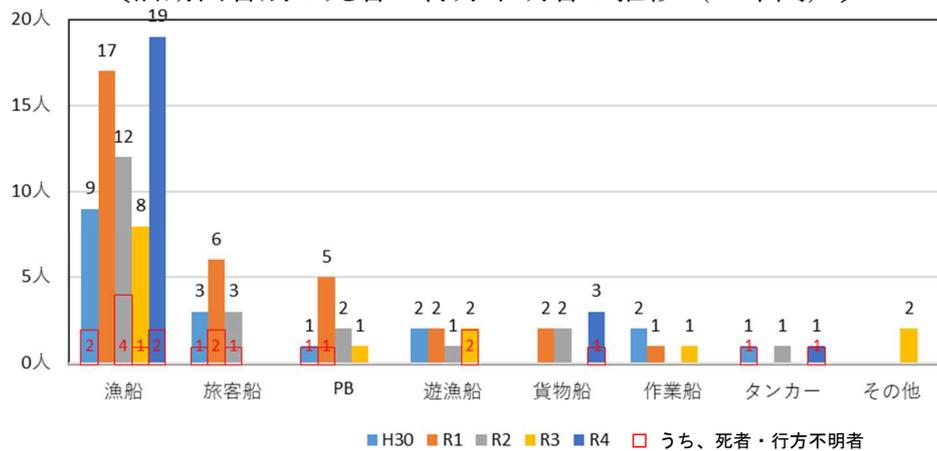
(2) 船舶海難によらない乗船者の人身事故

- ✓ 漁船乗船者の人身事故が前年比 11 人増の 19 人と大幅に増加した。
- ✓ 船舶種類別にみると、漁船による海難が突出して多く、全体の 60% (65 人/109 人) を占め、次いで旅客船が約 11% (12 人) と続く。(5 年間累計)

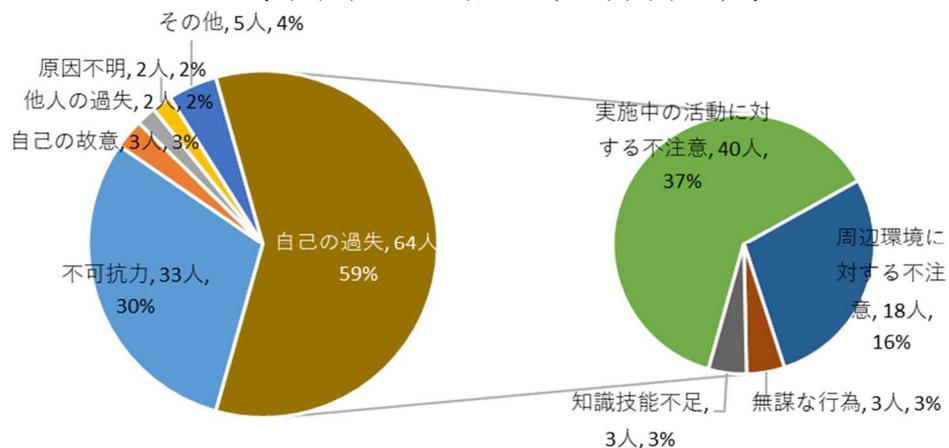
〔活動内容別の割合 (5 年間累計) 〕



〔活動内容別と死者・行方不明者の推移 (5 年間) 〕



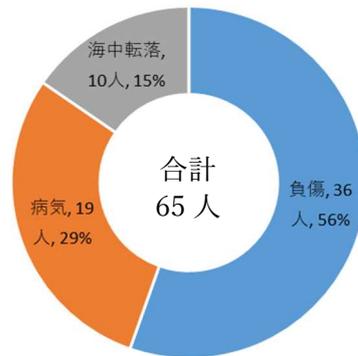
〔海難原因別の割合 (5 年間累計) 〕



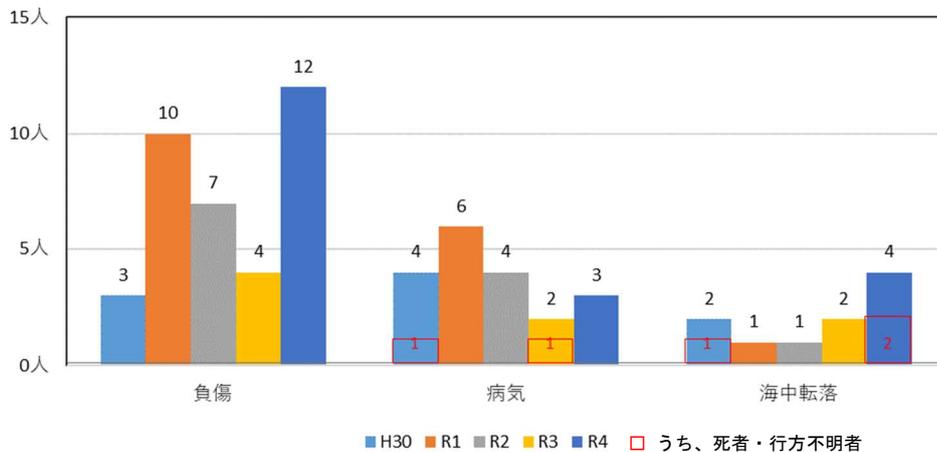
① 漁 船

- ✓ 海難種類別にみると、負傷によるものが最も多く、全体の56%（36人／65人）を占め、次いで病気によるものが約29%（18人）と続く。（5年間累計）
- ✓ 負傷による人身事故が前年比8人増の12人と大幅に増加した。
- ✓ 特に巻き込まれによるものが前年比3人増の6人と増加し、近年において最多。
- ✓ 発生時期は、秋期（9月～11月）に、特に11月に多く発生する傾向にあるが、年間を通じて発生している。

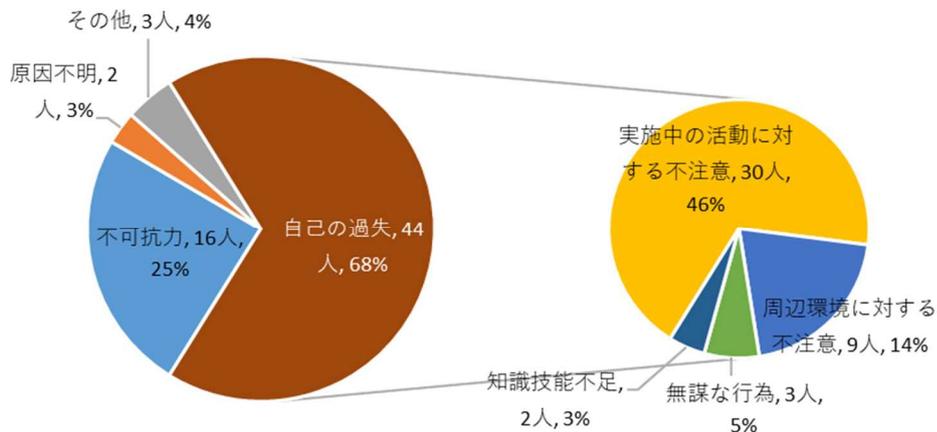
〔漁船による人身海難の種類別の割合（5年間累計）〕



〔漁船による人身海難の種類と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



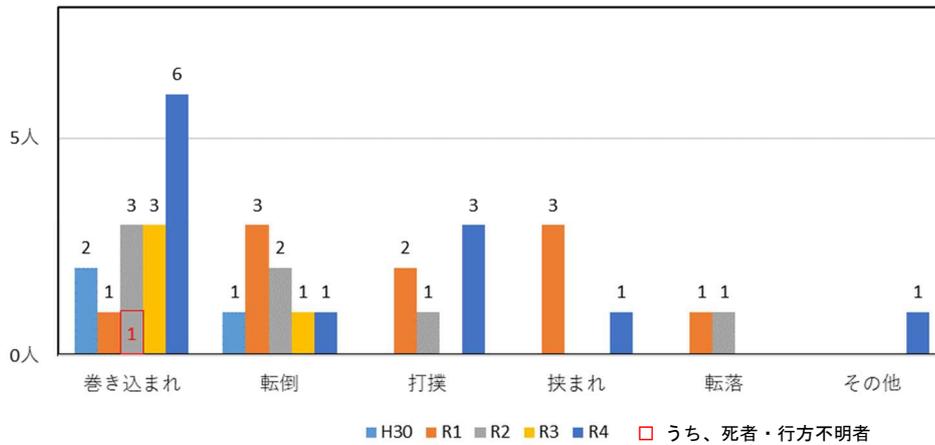
〔漁船乗船者の海難原因別の割合（5年間累計）〕



〔漁船による負傷事故の種類別の割合（5年間累計）〕



〔負傷事故の種類と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



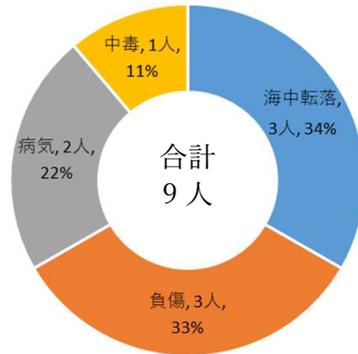
〔漁船による人身海難の発生時期と海難の種類（5年間累計）〕

	冬		春			夏			秋			冬	計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
負傷	4人	2人	2人	3人	2人	2人		4人	1人	3人	7人	6人	36人
うち、死者・行方不明者	1人												1人
病気	1人			4人	1人		1人	2人	3人	1人	4人	2人	19人
うち、死者・行方不明者	1人				1人		1人				1人	1人	5人
海中転落	1人	2人		1人			1人		3人		1人	1人	10人
うち、死者・行方不明者									3人				3人
計（月）	6人	4人	2人	8人	3人	2人	2人	6人	7人	4人	12人	9人	65人
うち、死者・行方不明者	2人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	3人	0人	1人	1人	9人
計（季節）	19人		13人			10人			23人				65人
うち、死者・行方不明者	3人		1人			1人			4人				9人

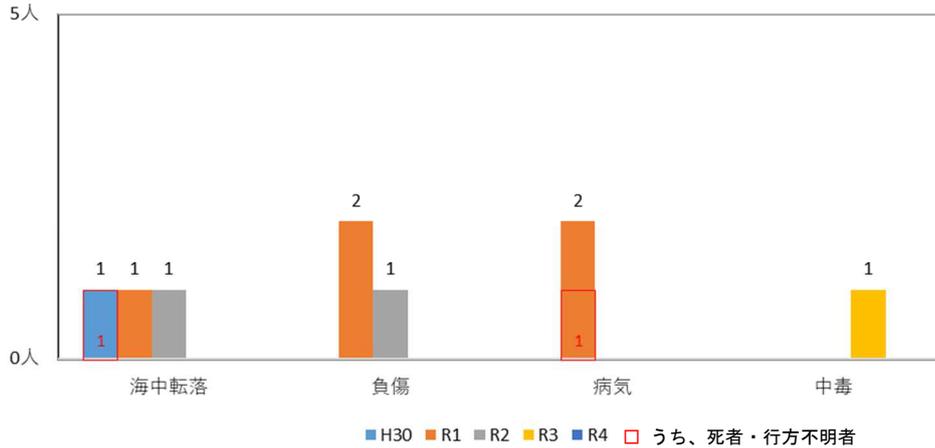
② プレジャーボート

- ✓ 海難種類別にみると、海中転落及び負傷によるものが最も多く、それぞれ全体の 33% (3 人/9 人) を占めている。(5 年間累計)
- ✓ 発生時期は、7 月に多く発生する傾向にある。

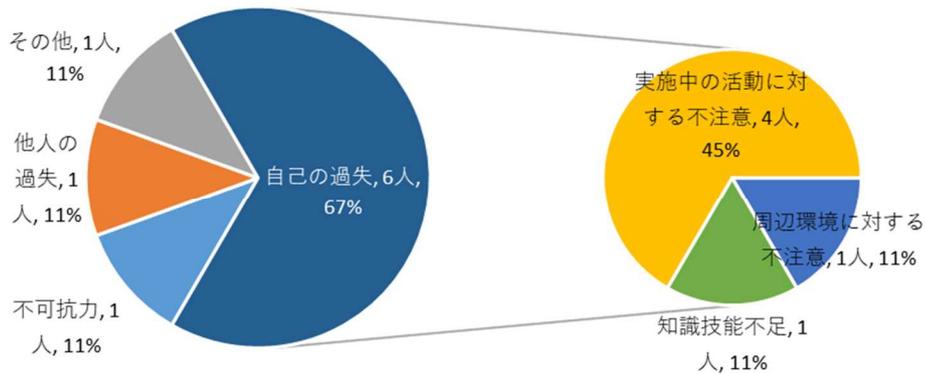
〔プレジャーボートによる人身海難の種類別の割合 (5 年間累計) 〕



〔プレジャーボートによる人身海難の種類と死者・行方不明者の推移 5人〕



〔プレジャーボートによる人身海難の原因別の割合 (5 年間累計) 〕



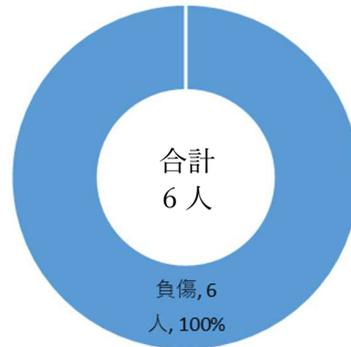
〔プレジャーボートによる人身海難の発生時期と海難の種類（5年間累計）〕

	冬		春			夏			秋			冬	計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
海中転落				1人			1人				1人		3人
うち、死者・行方不明者				1人									1人
負傷							3人						3人
うち、死者・行方不明者													0人
病気							1人		1人				2人
うち、死者・行方不明者							1人						1人
中毒							1人						1人
うち、死者・行方不明者													0人
計（月）	0人	0人	0人	1人	0人	0人	6人	0人	1人	0人	1人	0人	9人
うち、死者・行方不明者	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	2人
計（季節）	0人		1人			6人			2人				9人
うち、死者・行方不明者	0人		1人			1人			0人				2人

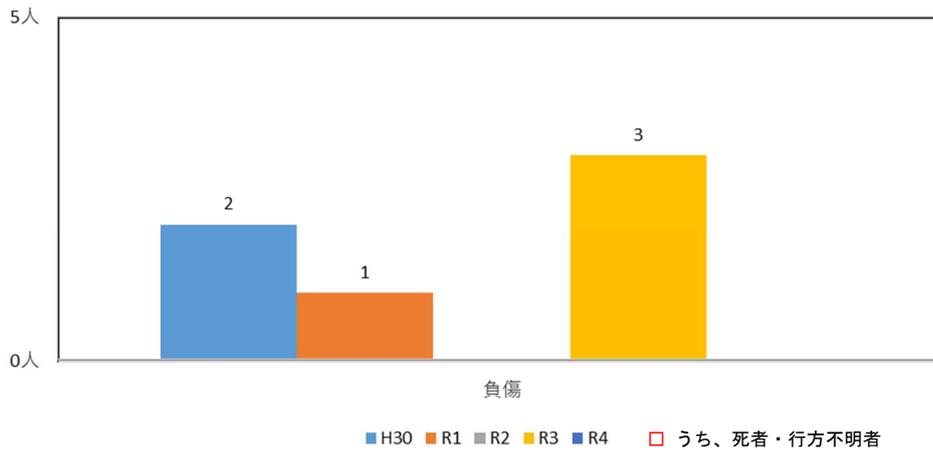
③ 工事関係船（作業船・その他）

- ✓ 海難種類別に見ると、負傷によるもののみであり、断続的に発生している。（5年間累計）

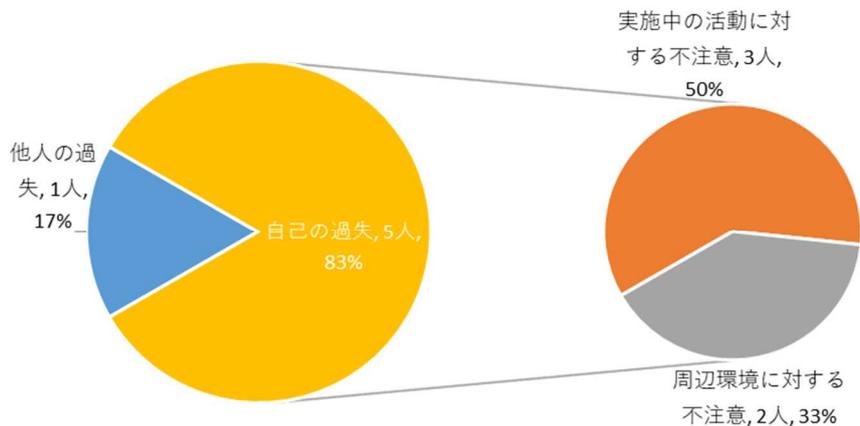
〔工事関係船による人身海難の種類別の割合（5年間累計）〕



〔工事関係船による人身海難の種類と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



〔工事関係船による人身海難の原因別の割合（5年間累計）〕



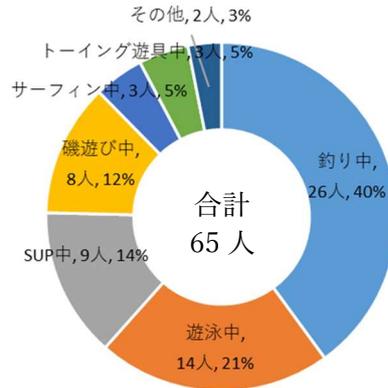
〔工事関係船による人身海難の発生時期と海難の種類（5年間累計）〕

	冬		春			夏			秋			冬	計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
負傷				1人	1人	1人	1人			1人	1人		6人
うち、死者・行方不明者													0人
計（月）	0人	0人	0人	1人	1人	1人	1人	0人	0人	1人	1人	0人	6人
うち、死者・行方不明者	0人	0人	0人	0人									
計（季節）	0人		2人			2人			2人			0人	6人
うち、死者・行方不明者	0人		0人			0人			0人			0人	0人

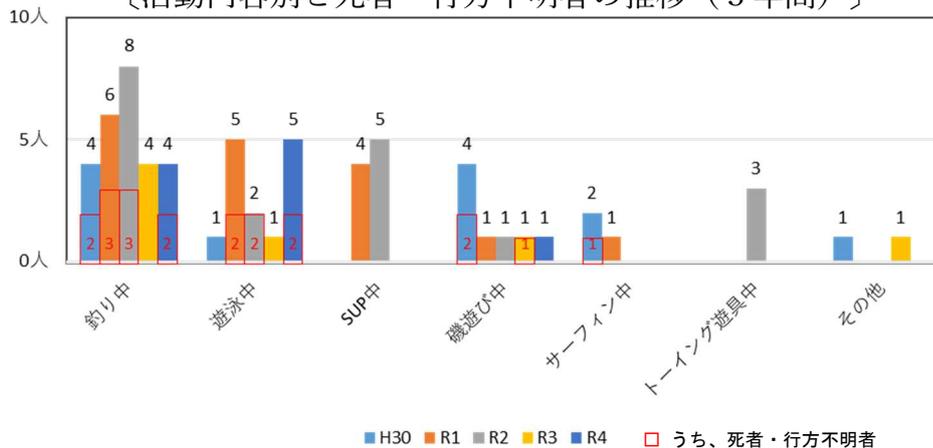
(3) マリレに伴う海浜事故

- ✓ 遊泳中の事故が前年比 4 人増の 5 人と、大幅に増加した。
- ✓ 活動内容別に見ると、釣り中の人身海難が多く、全体の 40% (26 人 / 65 人) を占め、次いで遊泳中の人身海難が 21% (14 人) と続く。(5 年間累計)

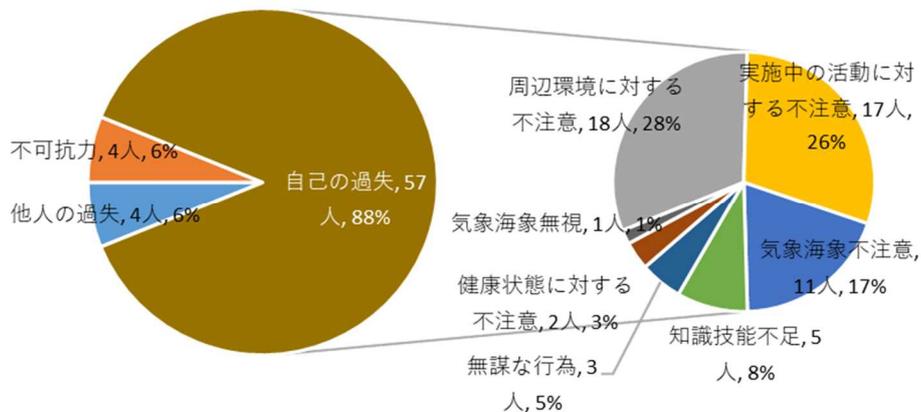
〔活動内容別の割合 (5 年間累計) 〕



〔活動内容別と死者・行方不明者の推移 (5 年間) 〕



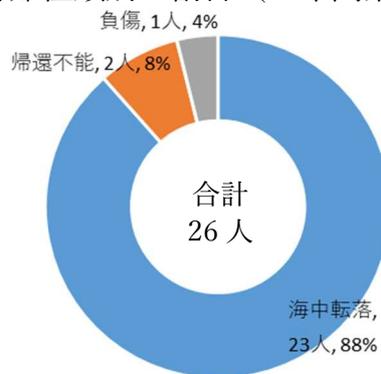
〔事故原因別の割合 (5 年間累計) 〕



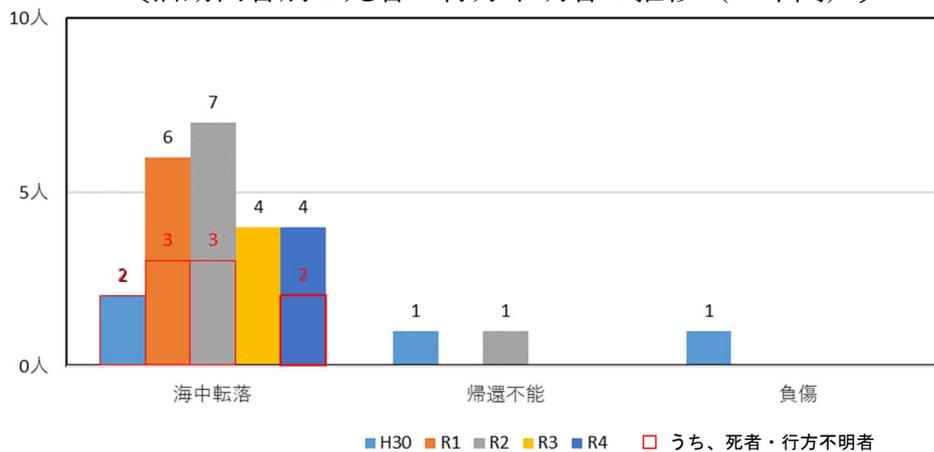
② 釣り中

- ✓ 海難種類別にみると、海中転落によるものが突出して多く全体の88%（23人/26人）を占める。（5年間累計）
- ✓ 海難原因別にみると、実施中の活動に対する不注意が最も多く全体の46%（12人/26人）を占め、次いで周辺環境に対する不注意が23%（6人）を占める。（5年間累計）
- ✓ 発生時期は、秋季（9月～11月）に多く、特に9月に多発する傾向にあるが、年間を通じて発生している。（5年間累計）
- ✓ 死者・行方不明者を伴う海難の発生時期は、冬季（12月～2月）に多く発生する傾向にあり、その全てが海中転落による。（5年間累計）

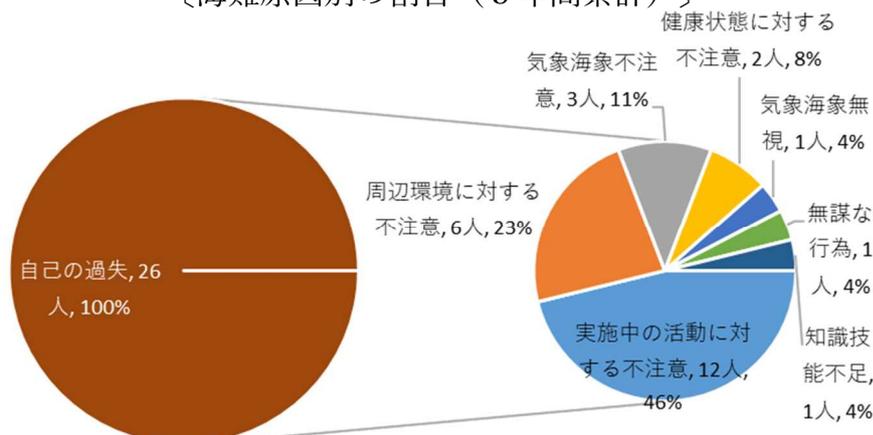
〔海難種類別の割合（5年間累計）〕



〔活動内容別と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



〔海難原因別の割合（5年間累計）〕



〔釣り中の人身海難の発生時期と海難の種類（5年間累計）〕

	冬		春			夏			秋			冬	計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
海中転落		4人	3人			2人	1人	1人	5人	2人	3人	2人	23人
うち、死者・行方不明者		3人					1人	1人	2人	1人		2人	10人
帰還不能										1人	1人		2人
うち、死者・行方不明者													0人
負傷												1人	1人
うち、死者・行方不明者													0人
計（月）	0人	4人	3人	0人	0人	2人	1人	1人	5人	3人	4人	3人	26人
うち、死者・行方不明者	0人	3人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	2人	1人	0人	2人	10人
計（季節）		7人	3人			4人			12人				26人
うち、死者・行方不明者		5人	0人			2人			3人				10人

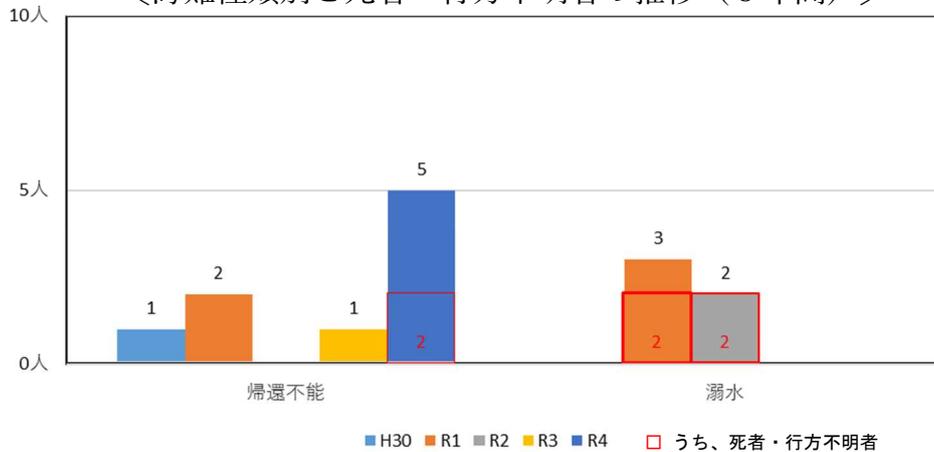
③ 遊泳中

- ✓ 海難種類別にみると、帰還不能が最も多く全体の64%（9人／14人）を占め、次いで溺水が36%（5人）と続く。（5年間累計）
- ✓ 海難原因別にみると、周辺環境に対する不注意が突出して多く全体の65%（9人／14人）を占める。（5年間累計）
- ✓ 遊泳場所別にみると、全て遊泳可能な海水浴場以外の場所で発生している。（5年間累計）
- ✓ 発生時期は、夏季（6月～8月）に多く発生する傾向にある。（5年間累計）

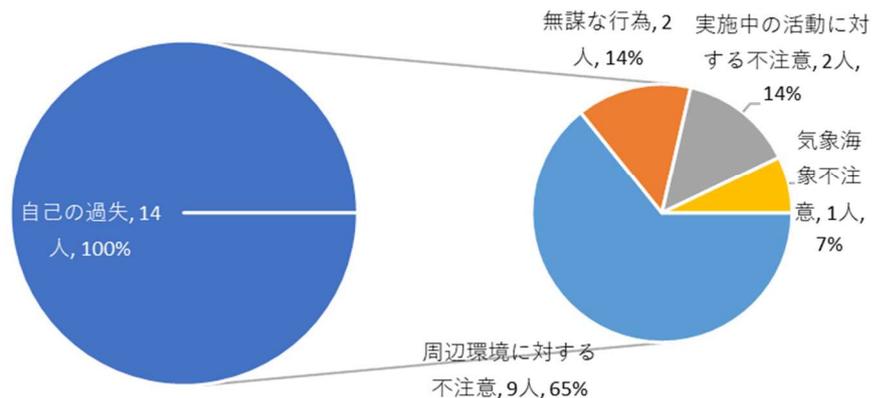
〔海難種類別の割合（5年間累計）〕



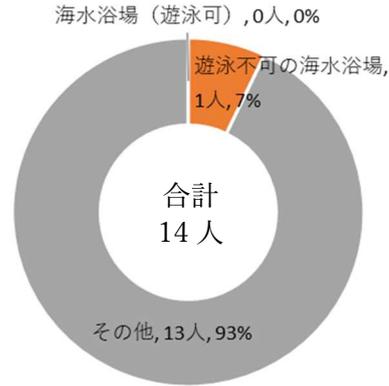
〔海難種類別と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



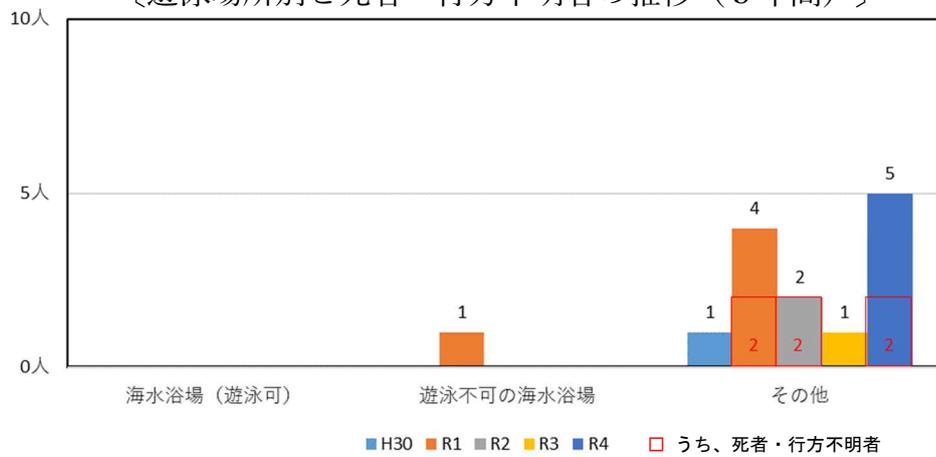
〔海難原因別の割合（5年間累計）〕



〔遊泳場所別の割合（5年間累計）〕



〔遊泳場所別と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



〔遊泳中の人身海難の発生時期と海難の種類（5年間累計）〕

	冬		春			夏			秋			冬	計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
帰還不能							6人	2人	1人				9人
うち、死者・行方不明者							1人		1人				2人
溺水						2人	1人	1人	1人				5人
うち、死者・行方不明者						2人		1人	1人				4人
計（月）	0人	0人	0人	0人	0人	2人	7人	3人	2人	0人	0人	0人	14人
うち、死者・行方不明者	0人	0人	0人	0人	0人	2人	1人	1人	2人	0人	0人	0人	6人
計（季節）	0人		0人			12人			2人				14人
うち、死者・行方不明者	0人		0人			4人			2人				6人

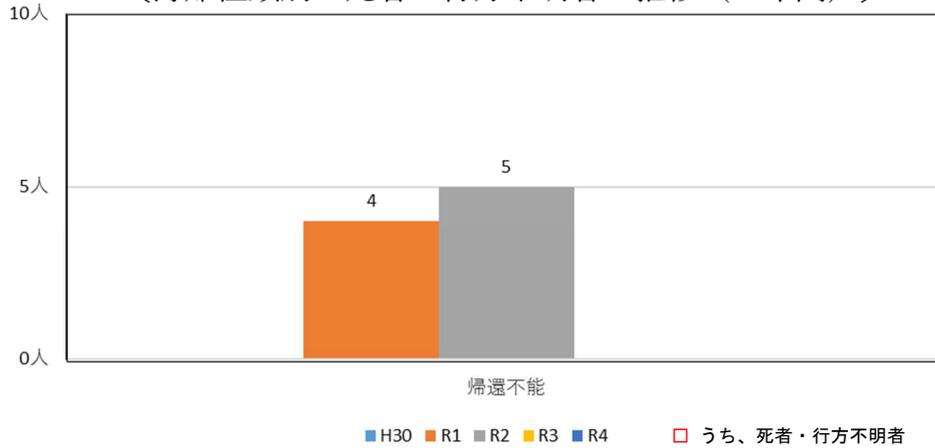
③ SUP（スタンドアップパドルボード）中

- ✓ 海難種類別にみると、全て帰還不能による。（5年間累計）
- ✓ 海難原因別にみると、気象海象不注意によるものが最も多く全体の56%（5人／9人）を占め、次いで知識技能不足によるものが33%（3人）と続く。（5年間累計）
- ✓ 発生時期は、6月と10月に多く発生する傾向にある。（5年間累計）

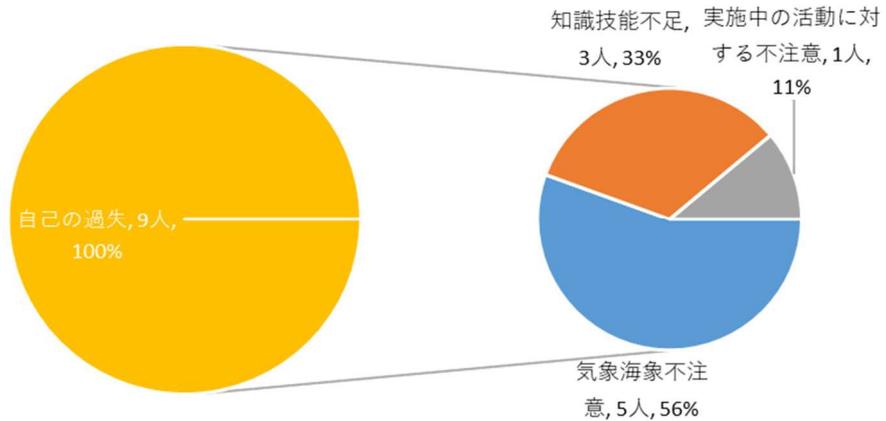
〔海難種類別の割合（5年間累計）〕



〔海難種類別と死者・行方不明者の推移（5年間）〕



〔海難原因別の割合（5年間累計）〕



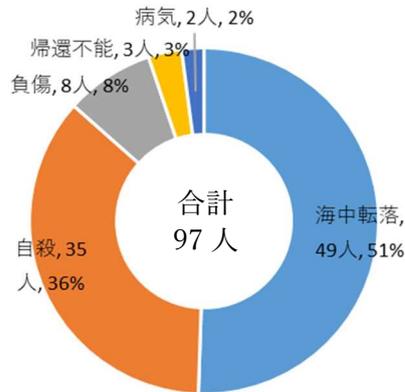
〔SUP 中の人身海難の発生時期と海難の種類（5年間累計）〕

	冬		春			夏			秋			冬	計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
帰還不能	1人					4人				4人				9人
うち、死者・行方不明者														0人
計（月）	1人	0人	0人	0人	0人	4人	0人	0人	0人	4人	0人	0人	0人	9人
うち、死者・行方不明者	0人	0人	0人	0人	0人									
計（季節）	1人		0人			4人			4人				9人	
うち、死者・行方不明者	0人		0人			0人			0人				0人	

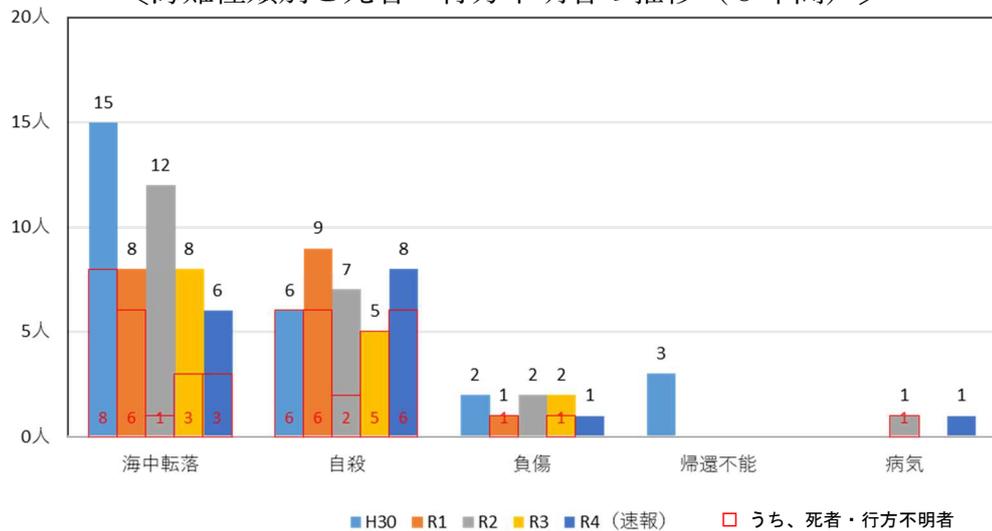
(4) マリレ以外の海浜事故

- ✓ 海難種類別にみると、海中転落が最も多く、全体の51%（49人/97人）を占め、次いで自殺が36%（35人）と続く。（5年間累計）

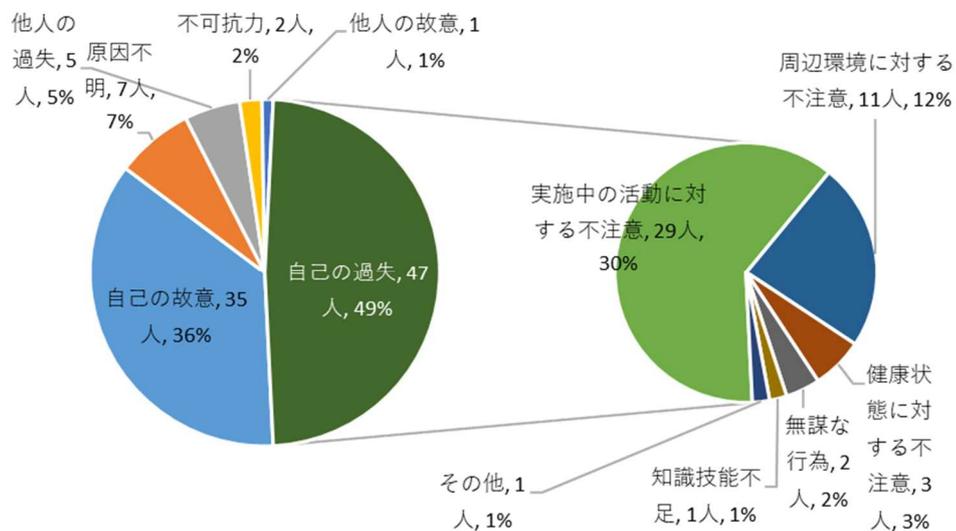
〔海難種類別の割合（5年間累計）〕



〔海難種類別と死者・行方不明者の推移（5年間）〕

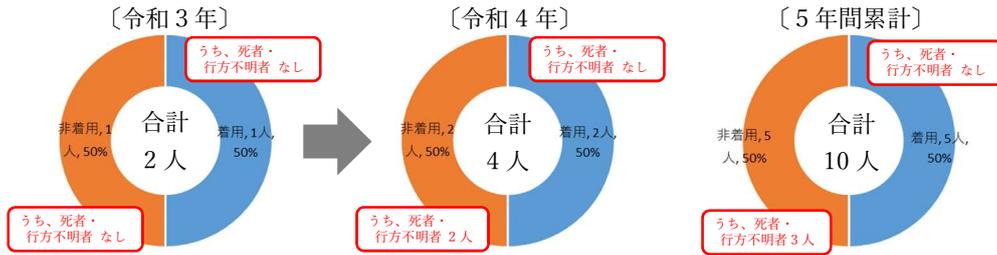


〔海難原因別の割合（5年間累計）〕



3 人身海難発生時における救命胴衣の着用率

(1) 漁船からの海中転落者の救命胴衣着用率



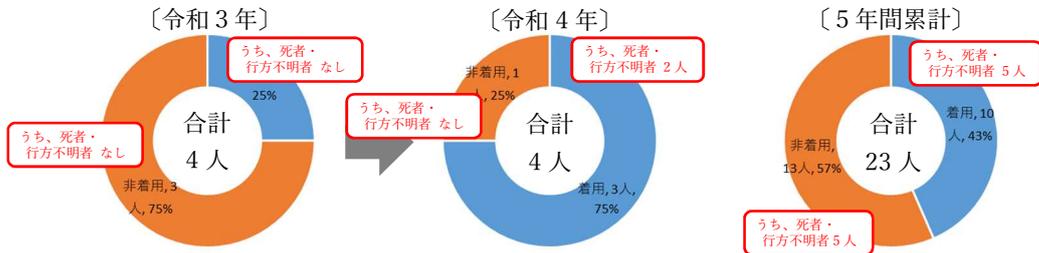
	H30	R1	R2	R3	R4	計	割合
着用	1人	1人		1人	2人	5人	50%
うち、死者・行方不明者						0人	0%
非着用	1人		1人	1人	2人	5人	50%
うち、死者・行方不明者	1人				2人	3人	100%
計	2人	1人	1人	2人	4人	10人	100%
うち、死者・行方不明者	1人	0人	0人	0人	2人	3人	100%

(2) プレジャーボートからの海中転落者の救命胴衣着用率



	H30	R1	R2	R3	R4	計	割合
着用		1人	1人			2人	67%
うち、死者・行方不明者						0人	0%
非着用	1人					1人	33%
うち、死者・行方不明者	1人					1人	100%
計	1人	1人	1人	0人	0人	3人	100%
うち、死者・行方不明者	1人	0人	0人	0人	0人	1人	100%

(3) 釣り中の海中転落者の救命胴衣着用率



	H30	R1	R2	R3	R4	計	割合
着用	1人	2人	3人	1人	3人	10人	43%
うち、死者・行方不明者	1人				2人	5人	50%
非着用	1人	4人	4人	3人	1人	13人	57%
うち、死者・行方不明者	1人	3人	1人			5人	50%
計	2人	6人	7人	4人	4人	23人	100%
うち、死者・行方不明者	2人	3人	3人	0人	2人	10人	100%